

宇治市開浄水場（地下水）の存続を訴えます！

市水道部—平成18年12月突然、休止を発表。住民との協定・歴史的経緯無視！

裁判にも訴え、存続を求めて、3年間取り組みを続けています。

安い・良質・豊富な井戸水（地下水）は、災害などいざという時のために、貴重な資源です。

止める理由、なにひとつない開浄水場

市水道部の3つの嘘

その1 水質が悪化している

開の水は栗隈山系の地下水。清澄で恒温性・うまみの多い良い水に変わりなし。

その2 発ガン性物質がある

原水中の揮発性物質に、発ガン性はない。京都府保健所と関係部局は、安全・安心な水と、平成19年4月と5月に調査結果を公表。

その3 老朽化で経費が高つく

ポンプの交換だけが必要。平成18年度に購入しながら、交換せず、流用。

必要経費250万円を住民が寄付

（水道部

—交換せず法務局に供託）

地下水は安い、府から購入水の三分の一

地下水は、災害時の市民の命綱

久保田市長が日産にお願い

開浄水場用地の寄付（平成15年）

「浄水場施設は貴社より移管を受け、今まで施設更新を行いながら開地域に水道の給水を続けてまいりましたし、今後もし給水事業を継続していく責任もございません。今日までの歴史的経緯を勘案いただき、また地域に対する社会還元として公共用地（水道用地）に無償寄付することについてご検討いただきたく、お願いをするものでございます」（原文）

日産車体は、地下水給水継続のため、水道用地として無償で寄付。

故渡辺市長が住民に約束（昭和51年

「地下水は市が責任を持って給水する。

この水を孫末代まで飲ます」。住民は市と覚書締結。議会も全会一致で承認。

地下水を保全・活用する市政を！